

## 今一度、気を引き締め、 収益の改善、経営基盤の再構築に 引き続き取り組んでまいります。

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当社グループの上半期の連結業績は、後述の「業績のご報告」でもご説明しておりますとおり、中国や東南アジアを中心とした景気の減速が想定以上であったことなどから、減益となりました。現在のところ、海外の市場環境の先行き不透明感は払拭できておらず、通期見通しにつきましても前年度を下回ると予想しております。

このような状況ではございますが、今期中間配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくという方針のもと、1株あたり2円とさせていただきます。株主の皆様には何卒ご理解を賜りたいと存じます。

代表取締役社長

川崎博也



さて、当社グループは「2013～2015年度グループ中期経営計画」に掲げた収益改善や経営基盤の再構築といった各種テーマに取り組んでまいりましたが、これらの取り組みの成果に加え、顧客の活動レベルが高水準であったことなどから、過去2年間は経常利益目標を前倒して達成してまいりました。しかしながら、今期につきましては、先に触れましたとおり減益の見通しであり、中期経営計画の最終年度にして目標の達成が難しい状況でございます。

収益改善活動やグローバル展開などの成果を踏まえますと、これまでの取り組みの方向性には間違いはないものと考えております。一方で、現在の状況を見れば、収益の改善・経営基盤の再構築は道半ばであることは明白であり、今一度、気を引き締める必要があると強く認識をしております。

そのためには、「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」として掲げた鋼材生産の上工程の集約や電力供給事業の拡大など大型プロジェクトの推進や、「経営基盤の再構築」として取り組んできたコストダウン投資の成果の取込みなどに注力することは当然ながら、足下の収益向上に資する拡販活動・体質改善、安定生産のための整備など地道な取組みについても、再度検証をし、引き続き取り組んでいかなばなりません。

さらには、今後の成長に向けて、新たな製品・技術の開発の歩みを止めることなく、加速していく必要があります。当社グループの成長の源泉は技術力・ものづくり力です。当社グループだからこそ可能な素材・機械の双方の技術の融合により、鉄・アルミ・溶接技術を組み合わせた部品

「マルチマテリアル」など、自動車や航空機などの輸送機の軽量化ニーズに応える新たな製品や技術の開発・提案を進めるほか、既に市場に展開している燃料電池車の部材や水素ステーション向けの各種機械など水素関連ビジネスの拡充・拡大にも積極的に取り組んでいく所存です。

現在の状況は決して芳しいものではなく、株主の皆様のご期待に十分応えることができてはいないことを肝に銘じながら、当社グループ一同、様々な施策に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

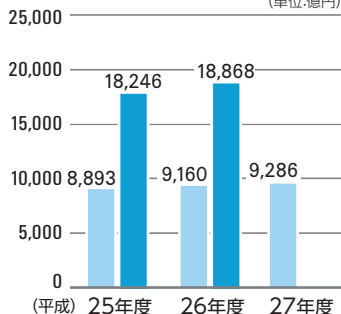
平成27年11月

※中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

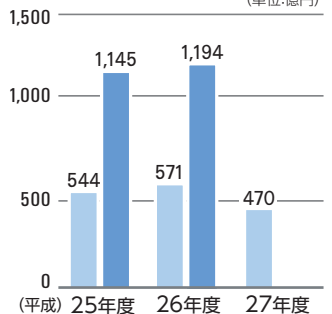
## 業績ハイライト(連結) (表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)



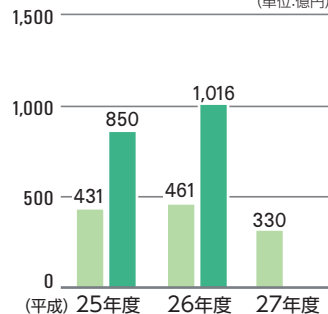
■ 上半期 ■ 通期 (単位:億円)



■ 上半期 ■ 通期 (単位:億円)



■ 上半期 ■ 通期 (単位:億円)



■ 上半期 ■ 通期 (単位:億円)

